

自分の考えをもち、 仲間と共に学ぶ楽しさを 味わう子の育成

～ 5年生・少人数指導の授業を通して～



関市立金竜小学校
足立みゆき

1. 主題設定の理由

(1) 教育目標から

金竜小学校 学校教育目標

なかまのしあわせのために

かしこく

やさしく

たくましく

生きる子

(2) 昨年度の研究の成果と課題から

■【成果】

- ・学習ノートや教材教具の工夫により、自分の考えを持てる子が増えてきた。
- ・机間指導の在り方などを追求する各学年の取り組みの継続が、児童の自分の考えを持つ力・熱心に問題に取り組む姿につながった。

■【課題】

- ・自分の考えを分かりやすく説明する力が弱い。
- ・仲間の説明をよく聞き、よりよい考えを生み出したり、活用して自分の考え作りに生かしていくことがなかなかできない。

2. 願う子どもの姿

低学年

具体物操作や絵図で表す活動を通して、考えづくりができる子

中学年

絵図や式などの、かく活動を通して、多様な考えづくりができる子

高学年

仲間の考えと比べることを通して、考えをより深めることができる子

3 . 研究仮説

- 問題の意味を理解し、見通しを持たせることができれば、子ども達は問題解決に粘り強く取り組むことができる。
- 自分の考えを説明したり、仲間の考えから学ぶ活動を充実させていけば、順序よく考えたり数学的な見方・考え方を広げたりしていくことができる。
- 「その子」に力をつけるための指導・援助の具体化を図れば、一人一人に学ぶ喜びや充実感を味わわせることができる。

4. 研究内容

研究内容1

一人一人が自分の考えを持つ単元指導計画のあり方

- ・TTや少人数指導を効果的に取り入れた指導計画
- ・ねらいと評価の4観点との関わりを持たせた指導計画

研究内容2

仲間と共に学ぶ楽しさを味わう学習活動のあり方

- ・見通しを大切にした課題設定の工夫
- ・仲間と学び合う場を大切にした学習過程の工夫
- ・まとめや振り返りの場の工夫

研究内容3

「その子」に力をつけるための指導援助のあり方

- ・A規準、B規準、C規準を踏まえた指導の工夫

5. 実践

研究内容1

一人一人が自分の考えを持つ単元指導計画のあり方

T・Tや少人数指導を効果的に取り入れた指導計画の作成

時	学習のねらい	学習形態、学習活動（展開の概要）	形態	評価の観点
1	長方形の面積をもとにして、直角三角形の面積の求め方が分かり、四角形の面積は三角形に分割して考えればよいことに見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○図を見て、サッカー場の敷地の面積を求める。 <ul style="list-style-type: none"> ・長方形の面積の公式を使って求める。 公園の敷地（直角三角形）の面積の求め方を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・長方形を対角線で切ると形も大きさも同じ2つの直角三角形に分けられることから考える。 ・T1 考えがもてた子=ペアで交流し説明ができるように働きかける。 T2；考えが持てない子=机間指導。） ・全体交流し面積の求め方を確認する。 	一斉 TT	考：長方形の面積をもとにして直角三角形や四角形の面積の求め方を考えることができたか。 関：面積を求める問題場面に関心をもち、意欲的に考えようとすることができたか。
2	一般の三角形を2つの直角三角形に分けたり長方形の面積をもとにしたりして考え、求積することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○競技場の敷地の面積の求め方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・2つの三角形に分けその三角形の面積の和で求められることを考える。 ○直角三角形の面積の求め方を思い出す。 <ul style="list-style-type: none"> 三角形の面積を工夫して求めよう。 ・2つの直角三角形に分けて考える。 ・長方形の面積をもとに考える。 (T1；考えがもてた子=交流 T2；考えがもてない子=お助けコーナー) ・全体交流し三角形の面積を2つの考え方で求めることができることを確認する。 ○練習問題をやる。 	少人数	考：直角三角形の面積の求め方を基に一般の三角形の面積を工夫して求めることができたか。 表：式をたてて面積を求めることができたか。
3	三角形の面積を求める公式を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の面積を求める公式を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・長方形の縦と横の部分が三角形のどこの部分に当たるかを考える。 ○長方形の求積公式を利用して面積を計算する。 ○底辺・高さの用語を知り三角形の面積の公式をまとめる。 ○練習問題をやる。(T1,T2でみとどけ) 	少人数	考：長方形の求積公式を利用して面積の求め方を考えることができたか。 知：三角形の底辺と高さが分かり、三角形の面積を求める公式が分かったか。

5年生

単元名：「面積」

授業内容に合わせて考えた形態を位置づけた。

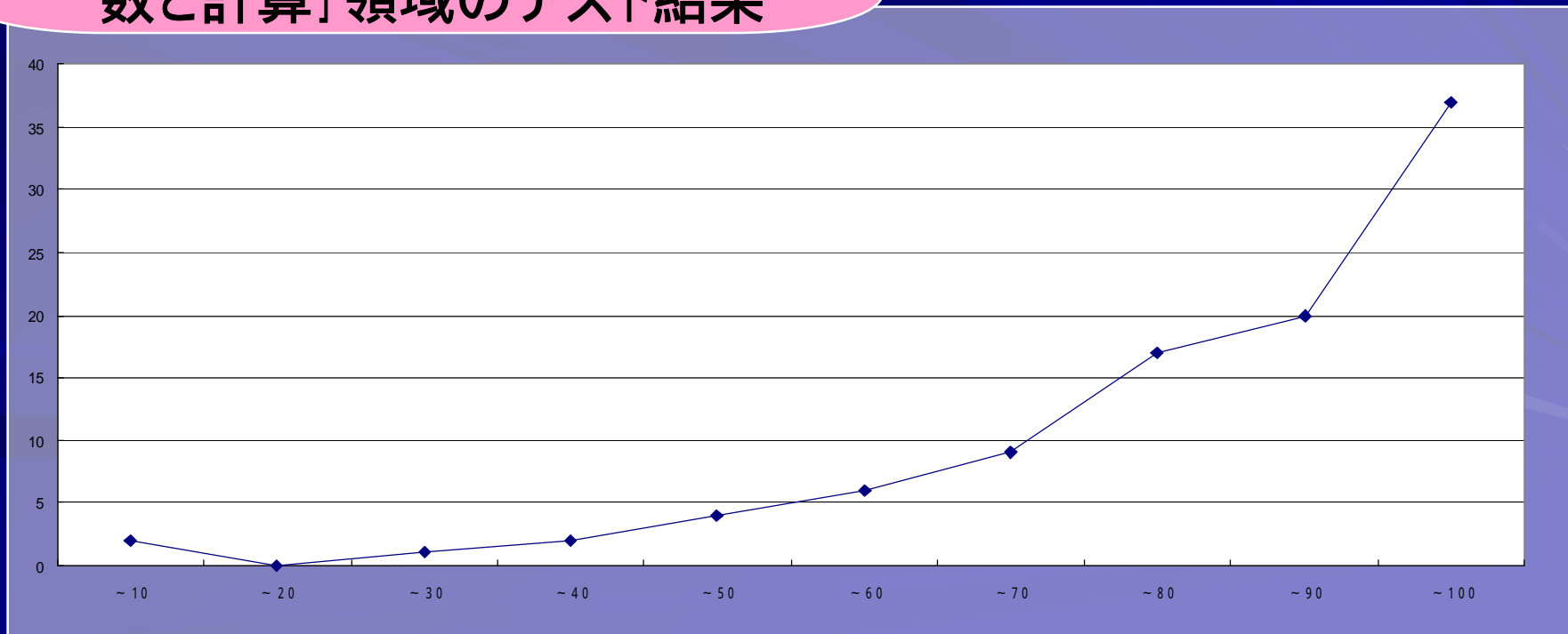
習熟度別コース少人数について

児童の実態より

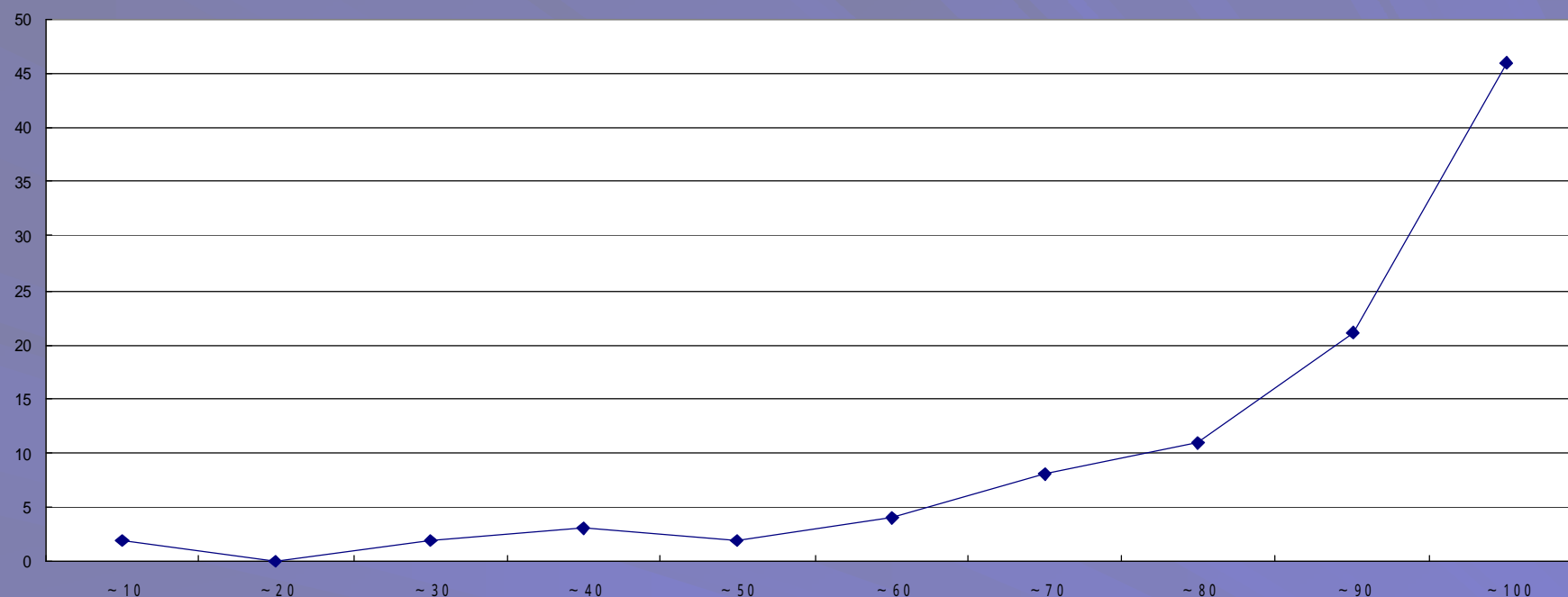
学習に前向きで意欲的に取り組める児童が多い。

児童間の学力の差が大きい。

「数と計算」領域のテスト結果



「図形」領域のテスト結果



- ・どんどんコース(A評定中心)1クラス……32名程度
- ・しっかりコース(A~B評定中心)2クラス……各26名程度
- ・じっくりコース(C評定中心)1クラス(T.T)……17名程度

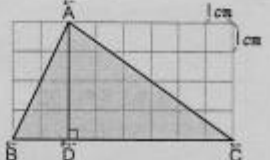
毎時間、担任と少人数担当 計5名で習熟度別少人数指導を行う

研究内容2

仲間と共に学ぶ楽しさや充実感を味わう学習活動のあり方

学ぶ楽しさや充実感を味わうための学習教具・教室環境の工夫

じっくりコースでは・・・

(6) 本時の展開 (じっくりコース)	
学習活動	◎主な発問
1、本時の課題をつかむ。 △ 三角形の面積を求める公式を考えよう。	○前時の学習を想起させる。 「三角形の面積は、長方形の面積の半分になっていたよね。」
2、問アを考える。 ア 長方形をもとにして面積を求めるには、右の三角形のどこの長さがわかればよいでしょう。	
	
◎どの長方形をもとにしますか。 鉛筆で囲ってみましょう。 ・鉛筆で囲む。	○長方形をもとにするのかを確認する。
◎どんな計算で面積がもとめられるでしょう。 ・縦×横÷2	
◎長方形の縦と横は三角形のどこの部分でしょう。 ・縦はADの長さと同じ。 ・横はBDとDCを足したのと同じ。 ・横のBDとDCを足すと、BCになる。	○長方形の縦と横の長さを数えて書き込ませる。

課題解決のための発問を多くし、一人一人が理解できるように努めた。

どんどんコースでは・・・

3、問イを解く。

イ 上の三角形の面積を計算で求めましょう。

・個人で追究する。

$$\cdot 8 \times 4 \div 2 = 16 \quad \text{A、} 16 \text{ cm}^2$$

三角形の面積は長方形の面積の半分になっているので、長方形の面積の公式「たて×横」を計算してそれを2でわればいい。

「たて×横÷2」で三角形の面積が求められる

「自分の考え」を
プリントに書くこと
を毎時間繰り返
した。これをもと
に交流活動を行
った。



研究内容3

「その子」に力をつけるための指導援助のあり方

評価計画に基づいた個々の児童に対する支援の仕方と見届け

個人カルテ用 評価規準表 (5年 面積 全13時間)

時	学習のねらい	A 規 準	B 規 準	C 規 準
1	・直角三角形の面積は長方形の半分であるという考え方を使えば、求められることを理解することができる。(関・考)	長方形の面積をもとにして直角三角形や四角形の面積の求め方を言葉や式に表して考えることができる。	長方形の面積をもとにして直角三角形や四角形の面積の求め方を考えることができる。	具体物を折ったり、切ったりしながら求め方を考えることができる。
2	・一般の三角形を2つの直角三角形に分けたり長方形の面積をもとにしたりして考え、求積することができる。(考・表)	直角三角形の面積の求め方をもとに一般の三角形の面積の求め方を言葉や式に表しながら求積することができる。	直角三角形の面積の求め方をもとに一般の三角形の面積を工夫して求めることができる。	方眼のマスを利用しながら、直角三角形の面積の求め方を考えることができる。
3	・三角形の面積を求める公式を考える。(考・知)	長方形の求積公式を利用して、三角形の面積の公式を自分なりの表現で表すことができる。	長方形の求積公式を利用して、三角形の面積の求め方を考えることができる。	三角形の面積の公式を理解し、面積を求めることができる。

毎時間、評価規準表に照らし合わせた評価をし、
次時の支援につなげた。

じっくりコースでは・・・

5年 算数 面積 3/13

10月26日 火曜日

課題 三角形の面積を求める公式を考えよう。

③ 三角形の面積を求める公式を考えましょう。

⑦ 長方形をもとにして面積を求めるには、右の三角形のどこの長さがわかればよいでしょう。

⑧ 上の三角形の面積を計算で求めましょう。

④ 三角形ABCで、頂点Aから辺BCに垂直にひいた直線の長さを 高さ、そのときの辺BCを 底辺 といいます。

三角形の面積の公式 底辺×高さ÷2

④ 次の三角形の面積を求めましょう。

② $8 \times 7 \div 2 = 28$ 答え 28cm^2

① $6 \times 7.5 \div 2 = 22.5$ 答え 22.5cm^2

③ $11 \times 4 \div 2 = 22$ 答え 22cm^2

① 進んで学習に参加できましたか。 ○ ○ △

② 面積を求める公式を考えることができたか。 ○ ○ △

③ 分かったこと、できるようになったこと、疑問など。

今日のもんだいがいかがよかったですか
 のでよかったら、あつきの算数おぼ
 おげえとお願いです。

4 × 8 ÷ 2 = 16
 $\frac{16}{2} = 8$
 答え 16cm^2

- ・「底辺」「高さ」が視覚的にきちんと捉えられるように色ペンを使ってかかせた。
- ・練習問題では公式が正しく使えるように一緒に解いたり、抵抗があると思われる少数の問題を最後にしたりした。

6 . 成果と課題

- 【成果】
- 一人一人が自分の考えを持つ単元指導計画のあり方
- ・習熟度別の3つのコースに分けることにより、その児童にあった指導・援助ができた。特に、じっくりコースではTT指導によりきめ細かい対応が可能になった。
- ・評価規準A・B・Cにより、各コースでの出口がはっきりした。

■ 仲間と共に学ぶ楽しさを味わう学習活動のあり方

- ・前時までの復習を位置づけることにより、課題追究に見通しを持たせることができた。
- ・どんどん・しっかりコースでは隣同士の交流 全体交流のパターンが身に付き指示をしなくても交流ができるようになった。
- ・授業の導入でTT授業を行い、じっくりコースの子も仲間の意見から学ぶ機会をつくった。
- ・学習プリントに毎時間の振り返りを書くことにより、教師側が児童の理解度をつかむ手がかりとなった。

■ 「その子」に力を付けるための指導援助のあり方

- ・コース別少人数指導の中で「その子」に合わせた学習の進め方ができた。
- ・あらかじめ一人一人のつまづきを予想し対応を考えることができた。それまで自信が持てなかった児童の中に自信や意欲が見え始めてきた。

■ 【課題】

- ・習熟度別コースの場合、ねらいや1時間の流れがコースによって違っていてもよいのではないか、検討していく必要がある。
- ・高まりのある交流活動の手だてを考えていく。
- ・A・B評定になる子ども達への充実感・満足感を持たせる支援のあり方を考えていく。